

東日本本部野球大会から

5月11日、12日の両日東日本本部主催の第11回軟式野球大会が大井ふ頭中央海浜公園野球場で開催された。仙台地本は各支部から参加者を募り、選抜チームを結成して大会に臨んだが惜しくも予選突破はならなかった。決勝は層の厚い東京勢で行われ東京Bチームが優勝を飾った。



予選1回戦力投する阿部(貴)

封こそ逃したものの、松が語るように完采と女房役の小れまでで最高の出が抜群によく「こはストレートの伸びと変化球のキレ

先発の阿部(貴)

ムは一気に仙台ペー

を叩き出し、ゲー

慢の打線が爆発、初回に打者8人を繰り出し5点を叩き出し、ゲームは一気に仙台ペー

予選一回戦は快勝となった。今回も各地方本部代表(東京地本は2チーム)10チームが集合、それぞれの意地と名誉をかけた闘いの幕が切つて落とされた。抽選の結果、仙台は高崎と長野との予選

予選一回戦は快勝

となった。

ともに優勝

経験のある強

豪チームだけに苦戦が予想されたが、一回戦は自

健闘も一歩及ばず

NRU 国労せんだい

NO. 2495

2007年5月23日

発行責任者 太田 博二

編集責任者 武田 昌仙



先制の口火を切った豪快なバッティング

の、正にベストピッチングで高崎の強力打線を封じ込んだ。また幾度と無くヒット性の当たりを掴み取り、反撃の芽を摘み取った、渡辺など守備陣



大量得点に終始和やかな雰囲気仙台ベンチ

の好プレーも特筆に値し、ベンチには「ナイスグロブ(キャッチではない)の掛け声と笑いが響き渡った。結果は着実に追加点を重ねた仙台が11対1で圧勝。予選突破に期待は大きく膨らんだ。

悪夢の二回戦

2回戦は前回優勝の長野。しかし今回は手練の投手を欠いており「くじを引いた時から勝てることを確信していた」と落合監督が交流会の場で漏らした通り、実は千載一遇の好機であった。「明日長



大会役員に選手宣誓をする盛岡地本代表



野を破って優勝だ」と交
流会で意気が上がる仙台
チーム。しかし2回戦は
先発大倉が打ち取った打
球がイレギュラーし不運
なヒットとなったたり、味
方のエラーを誘うなど、
初回到大量12点を献上
してしまった。結果は2
対15で大敗を喫した。

東京が優勝

敗れはしたものの、3
位決定戦出場に望みを繋
ぎたい仙台。せめて何と
しても3位に食い込みた
いとところ。予選1勝1敗
のチームが多く出たため
抽選となり、残念ながら
進出はならなかった。
結果は東京Bが優勝、
東京Aが準優勝を分け合
い、3位は高崎を破った
盛岡に決定した。
仙台は個々の実力的に

参加された皆さんお疲れ様でした



優れ、ベストの布陣で臨
めば十分優勝を狙える位
置に付けており、今後に



1回戦	1	2	3	4	5	計
高崎	0	0	0	0	1	1
仙台	5	3	3	0	X	11
2回戦	1	2	3	4	5	計
仙台	0	0	0	0	2	2
長野	13	0	2	0	X	15



仙台の戦績

向けての課題が明らかに
なった大会となった。

